

潟上・南秋けあねっと

～当地区で求められる在宅医療連携拠点事業～



【小玉医院】

在宅療養支援診療所
19床の有床診療所

【拠点事業スタッフ】

管理者・社会福祉士・
看護師・事務員(2)

小玉医院 在宅医療連携拠点事業所
管理者 菅原 則次

連携対象地域



潟上・南秋地区

人口 約60,000人

面積 約550km²

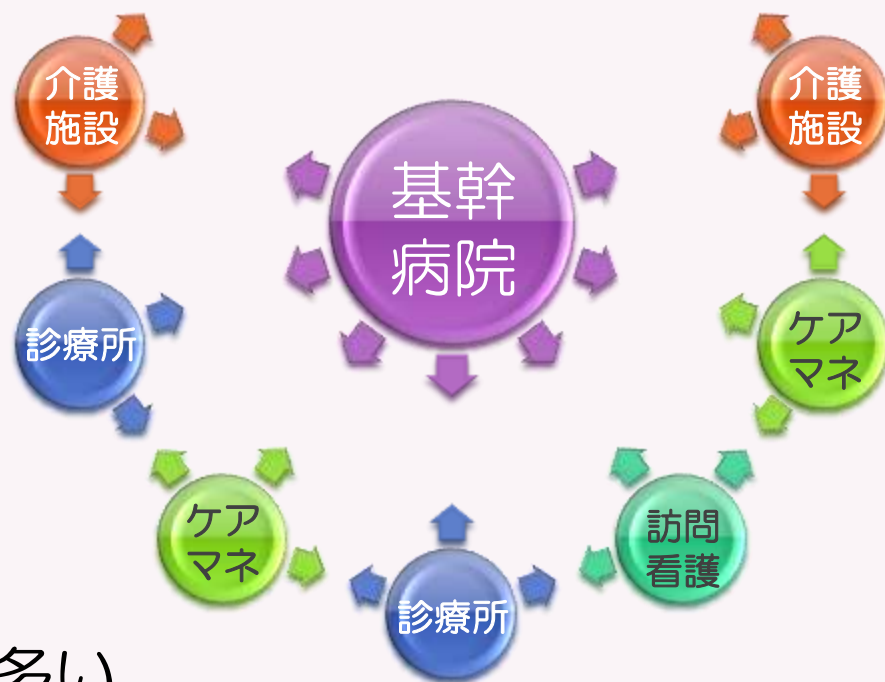
	潟上市	井川町	五城目町	八郎潟町	大潟村
人口	34,000人	5,300人	10,200人	6,400人	3,000人
高齢化率	27.1%	32.2%	40.6%	32.8%	28.0%
面積	98km ²	48km ²	215km ²	17km ²	170km ²

5市町村高齢化率 30.5%
秋田県 高齢化率 30.4%



連携対象地域の現状

1. 基幹病院がなくなり、診療所・介護施設等、各事業所との繋がりも弱い



2. 短期入所施設の数が極端に多い

	事業所数		事業所数
地域包括支援センター	5	認知症対応型通所介護	3
居宅介護支援事業所	23	短期入所	27
訪問看護	4	介護老人福祉施設	7
訪問リハビリテーション	2	介護老人保健施設	5
訪問介護	13	地域密着型老人福祉施設	1
訪問入浴	2	特定施設入居者生活介護	1
通所リハビリテーション	5	グループホーム	10
通所介護	18	小規模多機能型居宅介護	2

当事業所の活動

◆ 顔の見える関係づくり

まずは、拠点事業に携わる我々の顔を覚えていただくため足で稼ぐ（事業所まわり201箇所）

- ① 事業内容を説明、理解と協力を依頼
- ② 率直な意見により現状を把握
- ③ 医療・介護資源マップの作成の趣旨を説明し、情報提供を依頼
- ④ 医療機関の連携を強化

当事業所の活動

◆ 情報交換の場を設定

① 同職種間での情報交換会

(同職種で顔の見える関係づくり)

- ・ 訪問看護ステーション連絡会議
- ・ ショートステイ事業所連絡会議
- ・ 地域包括支援センター&居宅介護支援事業所連絡会議

② 2職種または3職種間での情報交換会

(他職種と顔の見える関係づくり)

- ・ ショートステイ事業所と
地域包括支援センター&居宅介護支援事業所連絡会議

③ 地域住民への情報発信

(民生委員の総会における在宅医療の講演等)

当事業所の活動

◆ 医療・介護資源の有効活用のために

ケアマネジャーや利用者に施設を周知する

① 資源マップを利用した施設情報

※場所や対応時間、利用可能者情報など

② ホームページを利用した施設情報

※空床状況や地図情報

③ 総合病院の相談窓口の情報

※連絡先と利用手引きの作成と配布

施設内給油所の設置

タンク：ガソリン 6トﾝ

軽油 4トﾝ

総工費：1,250万円

施工：トキコテクノ株式会社
(全国シェア60%)

医療・介護施設⇒全国初

平常時、公用車へ給油



2年(平成24年)12月2日 日曜日

地 域 (22)

県央

男鹿支局
☎ 0185-23-2303
FAX 0185-23-2880

南秋田支局
☎ 018-888-1840
FAX 018-823-2080

本荘支局
☎ 0184-24-3122

在宅医療、連携を模索

潟上市と南秋田郡
医師、看護師ら合同研修



潟上市と南秋田郡の医療、一り方を話し合おうと開いた。福祉施設が連携して高齢者の

月 畔 時 報

平成24年12月6日(木曜日) 2

県央

男鹿支局
☎ 0185-23-2303
FAX 0185-23-2880

南秋田支局
☎ 018-888-1840
FAX 018-823-2080

本荘支局
☎ 0184-24-3122
FAX 0184-24-3124

関係者が連携し
穏やかな最期を

潟上で在宅医療研修会

潟上市と南秋田郡の医療、福祉関係者による在宅医療の第2回合同研修会が30日、同市飯田川の八郎潟ハイツで開かれた。医師や看護師、ケアマネジャーなど約140人が出席。県総合診療・家庭医研修センター(秋田市)副センター長の桑原直行医師が、望ましい終末期医療の在り方に

桑原医師は「どんなに医療が進歩しても、死は誰に



医療、福祉関係者が終末期

潟 上 市

在宅医療連携拠点事業

「潟上・南秋けあねっと」 第2回多職種合同研修会

約150
人出席し講演傾聴しグループワーク



◆第二回多職種合同研修会

平成25年1月24日(木曜日) 2

在宅医療連携拠点事業

「潟上・南秋けあねっと」 第3回多職種合同研修会

石巻市立病院開成仮診療所所長
長 純一氏が講演

小玉医院 在宅医療連携な研修会になることを祈念通じて地域づくり活動をした。拠点事業所(潟上市昭和)の久保 主 主 主、在宅医療連携 男鹿市南秋田郡医師会長

が、いづるために、つなぐの演題で、時間特別講演をした。桑原医師は「地域医療の守備範囲を超えてカバるべき、同一の目標、情を共有する結束力の高い医療、介護福祉としてカバるべき、グループとチームの連携は、グループと、それなない集団。チームとは自己を超越し、地域文化を担うのは、地域で生活する住民以外にない。

医療、介護・福祉連携 8 必要。ワークショップをやる。結局、ひとである。在宅医療・介護は人間教育の場。地域文化を担うのは、地域で生活する住民以外にない。



開成 佐藤 月 小玉 領域 り 小玉 佐藤

ご清聴ありがとうございました



Kodama Clinic for Internal Diseases